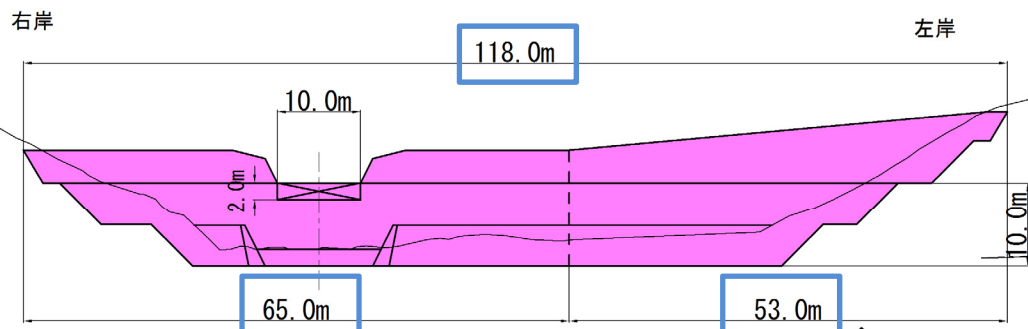


■砂防堰堤の幅の長さを変更となりました

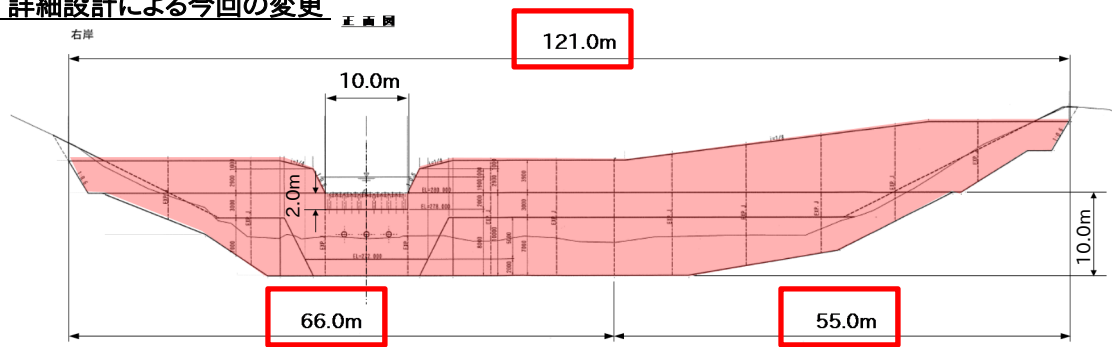
○詳細設計により、当初の118mから121mへ、3mの延長となりました

※幅の長さ以外、構造に大きな変更はありません

9/19説明会資料の一部抜粋より



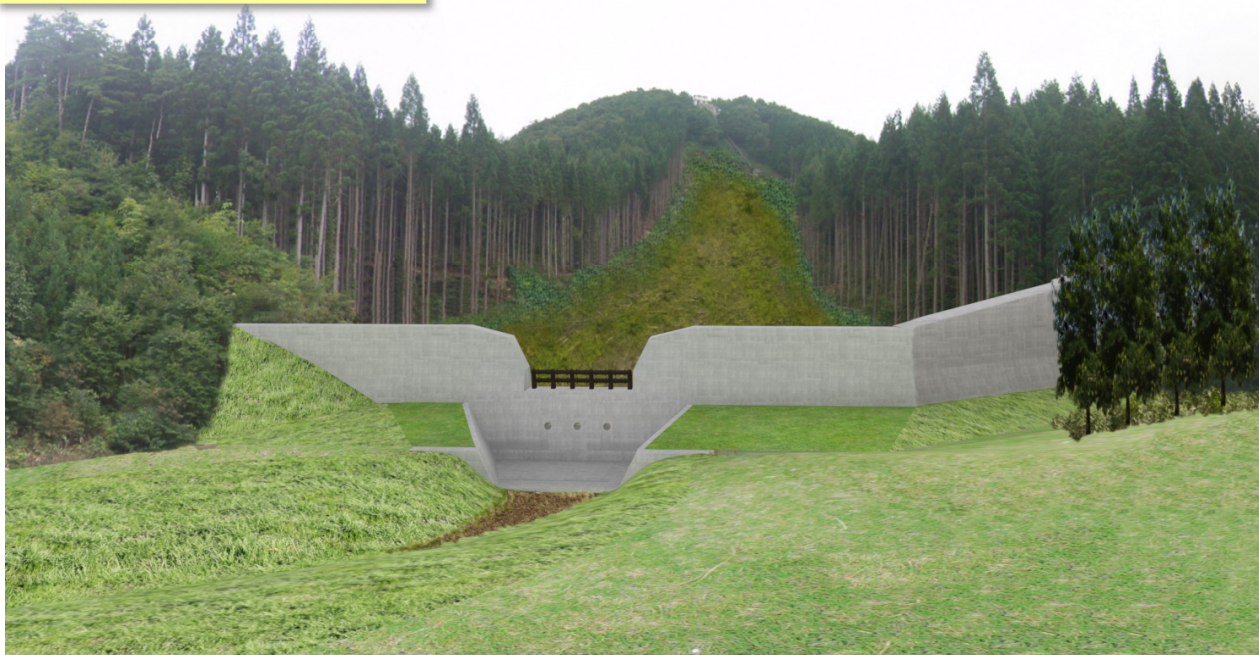
詳細設計による今回の変更



■砂防堰堤の完成イメージを作成しました

○あくまでもイメージ図であることをご了承下さい

砂防堰堤完成イメージ図



■崩壊地上部の現地を確認しました

○地質専門家と国交省担当者による現地調査(平成25年9月30日)

【調査ルート】



【調査実施者】

地質専門家 1名
国交省担当者 8名

【調査結果】

・崩壊地の上部に、亀裂等の変状や、直ちに崩壊の恐れのある地形は確認されませんでした



【参考】秋田県による現地調査(平成25年9月3日、土石流警戒避難に関する検討委員会資料より一部抜粋)

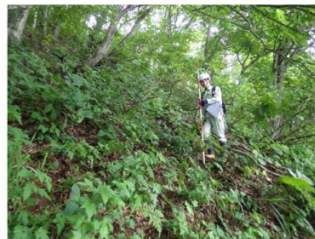
Ⅲ 未崩壊斜面の状況

未崩壊斜面や周囲の状況は以下のとおりである。

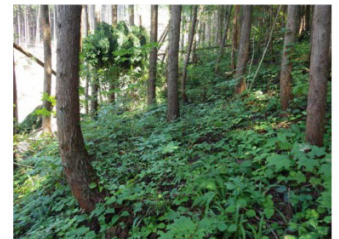
- 1) 滑落崖上部、左右の未崩壊斜面に亀裂等の変状は認められない。
- 2) 発電所施設(調節池)の壁面痕跡は、排水呑口までしか上昇していない。
- 3) 滑落崖の上部斜面で、電線を内挿するポリエチレン製保護管(直径15cm程度)及び地山が約3m程度露出している。



図 4.8 未崩壊部の写真位置図(平成25年8月10日秋田県撮影)



写真Ⅲ-① 滑落崖上部斜面に変状は認められない。



写真Ⅲ-② 左側部斜面に変状は認められない。



写真Ⅲ-③ 右側部斜面に変状は認められない。



写真Ⅲ-④ 滑落崖上部斜面中に認められる、電線保護管と地山の露出。黄色破線が崩壊前に埋設されていたと考えられるくぼみ。崩壊地で引っ張られ曲部で跳ね上がったと考えられる。



写真Ⅲ-⑤ 調節池の泥水痕跡は、洪水吐きの呑口まで上昇したが、越流は確認できない。